

平成28年度第2回（被服学・美術デザイン学）グループ合同委員会議事概要  
被服学教育FD/ICT活用研究委員会  
CCC美術・デザイン学グループ運営委員会

- I. 日 時 : 平成28年9月29日（木）18:00～20:00  
II. 場 所 : 私立大学情報教育協会 事務局  
III. 出席者 : 被服学FD/ICT活用研究委員会 阿部委員長、倉委員、  
CCC美術デザイングループ運営委員会 有馬委員、井澤委員、宮田委員(スカイプ参加)  
事務局 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 議事概要

被服学、美術・デザイン学グループの分野連携アクティブ・ラーニング対話集会の開催要項の検討

被服学の阿部委員長が進行役座長となり、前回(第1回合同委員会)美術デザイングループから出された話題提供のテーマの確認を行った後、被服学からの話題提供や対話集会の具体的な開催内容について検討を行った。

(1) 話題提供内容について

美術デザイングループから出された話題提供のテーマについて、資料②、資料③に基づき内容の検討を行った。

資料②：社会人基礎力の育成（大手前大学 井澤委員）

- ・学科が合同し、1年から4年までの全学連携による問題解決能力育成プログラムである。eポートフォリオで学修の成長を確認するアクティブ・ラーニングであることと、学修成果を評価するため学生にプレゼンテーションを課し、発表と質疑内容を教育ボランティアなどによる総合的な外部評価している取組みであることが確認された。

資料③：映像・デザイン・ファッションを融合させた学科横断型授業の試み（名古屋学芸大学）

- ・3つの学科（映像メディア、デザイン、ファッション造形）の学生がチームとなり、主体的に学修する試みであり、カリキュラム化をめざしている取組みである。
- ・学科横断型の取組みでもあることが確認された。

主な意見交換の概要：

- ・資料②大手前大学の取組みは、eポートフォリオにより学生が知識の定着・確認から知識の活用・創造に活かすことになると良い。  
知識の確認に制作展示や発表を行った後の学修が、知識を活かすことになり、知識の活用・創造に繋がるのではないかと。
- ・有馬委員から、学生が作品をiPadで撮ることでeポートフォリオに入るシステムの導入運用を検討していることが報告され、いろいろな応用の可能性があることが議論された。
- ・多くの学生の作品を限られた時間の中で評価することが困難であることが確認された。
- ・被服学においても学生はファッションショー等で作品を発表しているが、人数が多いことから発表後の学びが難しいことが認識された。
- ・宮田委員から、制作発表をポスター発表形式とし学生を半分づつ発表者と聴衆者に分けることで、発表学生は発表の意図を聴衆学生に説明し、聴衆学生は発表学生に質問し議論することで主体的な学修となっていること。また、質問をポストイットに書き、ポスターに貼る方法ではなく、エドモド(edmodo)などを利用しスマートフォンから書き込み相互評価する方法や、google フォームを使用し、アンケート作成や集計など、ICTの活用により制作発表後の学びが

効率的に実現できる可能性について報告された。提案型の話題提供として取り上げることが、確認された。

意見を踏まえて意見交換のテーマと話題提供を以下のように決定した。

対話を通じて課題を発見し、課題解決に向けた学びを主体的・協働的・創造的に展開していくアクティブ・ラーニングの手法と、それを実現していくための授業運営の工夫と組織的に推進していくための教学マネジメントの工夫について下記のとおりで意見交換を行う。

〈アクティブ・ラーニング〉

- ・知識の定着・確認を目指したアクティブ・ラーニング効果の振り返り
- ・知識の活用・創造を目指したアクティブ・ラーニング
- ・知識の活用・創造を学修する評価方法（ルーブリック・ピア評価・第三者評価など）

〈教学マネジメント〉

- ・教員間連携に伴う課題
- ・教員中心の授業科目編成から学位プログラム中心の科目編成に向けた課題

## (2) 話題提供

話題提供を以下のように決定した。

- ① 学修成果を可視化し質保証する試み  
井澤 幸三 氏（大手前大学 メディア芸術学部）
- ② 学生主体の学びを創造するTBL（チームベースドラーニング）の試み  
佐近田 展康 氏（名古屋学芸大学 メディア造形学部）
- ③ 作品の相互評価情報を効果的に共有するモバイル活用の提案  
宮田 義郎 氏（中京大学 情報工学部）  
倉 みゆき 氏（東京家政大学 家政学部）

## (3) 開催日時と場所

開催日時：平成28年12月4日（日）14:00～17:00

開催場所：大妻女子大学にて検討いただき、千代田キャンパスに決定した。

## V. 今後の予定

今回は対話集会とし、当日、事前打合せ会を実施することにした。